

7月8日（水）

◆福島県農業総合センター

本県食品の安心・安全を守るため、放射性物質モニタリング検査を実施している県農業センターを訪問。安全農業推進部 佐藤部長よりその取り組み状況について説明を受けた。



センターの取り組みについての説明

◆塩屋埼灯台

いわき市へ移動し塩屋埼灯台を訪問した。時折小雨がぱらつくあいにくの天気だったが、全員で灯台の上までのぼった。灯台からは、海岸の復旧状況を見ることができた。



◆湯本高校

英語科の1年E組の授業に参加した。5つのグループに分かれ、研修生はハワイの学校などについて紹介し、生徒たちは折り紙や紙風船などの古くからの日本の遊びを教えた。三択のふくしまクイズでは、グループ毎に話し合って答えを選び、正解が発表されるたびに歓声があがった。年齢が近いということもあり、研修生もすぐ打ち解けた様子で、生徒からの英語での質問に笑顔で答えていた。

授業の後もSHRに参加し、掃除を生徒と一緒にやり、放課後も生徒たちとゲームをして楽しんだ。



折り紙体験



全員でクイズ



放課後もゲームを楽しみました

7月9日（木）

◆小名浜港見学

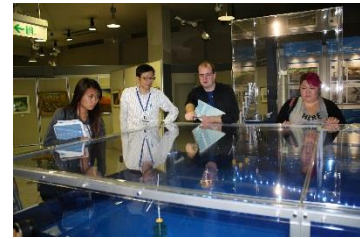
津波で被害を受けた小名浜港の現在の様子について、小名浜港湾建設事務所の藤田次長から説明を受けた。当日は、7MW洋上風力発電船の檣葉沖への曳航が延期になった関係で、藤原埠頭から洋上風力の視察をすることができた。



洋上風力の視察



小名浜港の現在の様子について



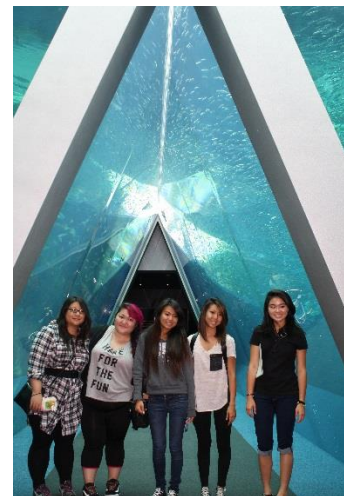
いわきら・ら・みゅう内

◆アクアマリンふくしま

環境水族館アクアマリンふくしまにおいて、被災から再開までの道のりについて担当者からお話を伺い、理解を深めた。研修生は水族館内を見学し、水槽で泳ぐ魚と写真を撮ったり、屋外の蛇の目ビーチまで足をのばしたりと時間いっぱいまで楽しんだ。



被災・復旧状況についての講義



水族館の見学

#### ◆いわき海星高校

いわき海星高校については、練習船『福島丸』がホノルル港に寄港した際に、ホノルル福島県人会との交流が以前からあったため、県人会側の要望もあり訪問が実現した。中にはホノルルで研修生と一緒にバーベキューやゲームを楽しんだ生徒もおり、日本での再会を喜んでいた。また、生徒たちで構成されたチーム『じゃんがら』のじゃんがら念仏踊りも披露された。



#### 結びに

本研修は平成 21 年度から始まり、今回で 5 回目の実施となった（平成 23～24 年度の東日本大震災の影響により中止）。研修生は母県訪問により自らのルーツを再確認することで本県との絆を感じ、また、復興に向けての取り組みや現状を実際に見ることで、福島についてより理解を深めてもらえたものと思われる。

今回の研修生も、家族や友人から福島への訪問を心配されており、また、自身も来県について心配があったようだ。実際に来て、見て、学んで不安は払しょくされたと言うが、海外には正しい情報が伝わりにくいことを改めて感じた。研修生が Facebook や SNS 等を使って発信する本県の情報が広く海外に伝わることを期待したい。

また、今回の研修は本県とのつながりを意識してもらいたいとの思いから、県民との交流に力を入れ、県内の中学・高校 3 校に協力いただき学校を訪問した。研修生は、同世代との交流を通して、福島をより身近に感じられたように思う。

祖先の「移住」により、福島から遠く離れた海の向こうで生活を送ることになった研修生とその家族。その心はいつまでもふるさと「福島」を想い続けていることを、過去の歴史も含め決して忘れることなく、今後も県人会との協力関係を築いていくことが大切だと感じた。